

第五講 新石器時代

時代区分 (BC)

- 6000/5000 前期新石器時代
- 5000/4500 中期新石器時代
- 4500/4000 後期新石器時代
- 4000/3600 終末期新石器時代

全ギリシアで前期新石器時代：250 の集落遺跡 (+50)

中期新石器時代：255 の集落遺跡 (+40)

テッサリア：前期新石器時代 1：14-23

前期新石器時代 2：106

中期新石器時代 3：85

農業文化の伝播

アナトリア~中近東との文化接触・経済交流

農業の開始：地中海農業の三本柱：麦・オリーブ・葡萄栽培の確立

人口：北部ギリシアに集中（大河川や大平野、湿潤な気候の存在）

南部ギリシアは希薄

キクラデス諸島には人々は存在せず。新石器時代の間に移住。

農耕村落の形成と文化

前期新石器時代（前 6000~5000 年頃）

アナトリア~中近東より農業文化の伝播

前 7000 年頃 牧畜（主として家畜化された羊や山羊）

前 6000 年頃 農耕（主に大麦や小麦、豆類・豌豆・）

エンメル小麦、六条大麦（裸麦）、豆類

アインコルン小麦、黍、からす麦、やはり豌豆、豌豆、団栗、無花果

羊、山羊、牛、豚……80%が羊と山羊

村落の形成

北部ギリシア

内陸部の大河川に面した平野部や小さな丘陵の上に形成

家屋は一戸一戸独立、村落の構造は開放的

南部ギリシア

海岸近くの洞窟や交易路上の内陸部の洞窟

食料生産の開始は七千年期に東部ギリシアの肥沃な低地で生じた。

穀物栽培が乾地園芸の形態を取ったのかそれとも洪水農業の形態を取ったのかについては論争されている。

羊の死亡データは比較的非生産的な食肉戦略による経営を暗示しており、家畜よりは穀物と豆類が主要な栄養源であったことを示している。

初期のテッサリアにおける新石器時代の居住地は年間を通しての定住性集落ではなかったと議論されてきた。← 1) 家屋の非実体性、2) 堆積層の薄さ、3) 幾つかの遺跡が洪水原に位置している。

近年の批判：

- 1) 家屋の非実体性は季節毎の居住を示す証拠とはならない、
- 2) 堆積層の薄さは家屋の非実体性（＝竪穴式家屋や柱構造小屋）による、
＞泥煉瓦家屋の倒壊によるほど堆積層を形成しない
- 3) 洪水が毎年起きていたのかそれともかなり長い間を置いて起きていたのかは分からない。

穀物や豆類の貯蔵＞収穫の為の初夏と種まきの為の初冬における人間の存在を示す。

若い羊や山羊、豚や牛＞冬の後半から初夏にかけての居住を示す。

羊や山羊の新生児＞冬の後半から早春にかけての居住を示す。

手に入る証拠は年間を通じての定住と一致する。

住民の生存は天水によって栽培される穀物と豆類に依存していた。

集落領の平均：430-450ha=200名の人口を支える

村落人口の閾値：200-300名、閾値を人口が超えた時、社会学的問題を
生ずる。＞村落の分裂を結果。

村落の所在地：沖積扇状地、鮮新世丘陵部、洪水原、沖積平野

平均的に分布

村落間の平均距離：2.3km

Haggettの累進的植民モデル：人口爆発＞耕地や牧地の外延化＞時間や労働コストの増大＞村落の分裂

平均的村落間の距離：2.5km